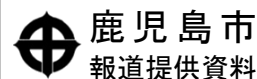




■ 提供日 令和元年12月24日(火)

■ 表題 Bウイルス病発生の届出について(2例目)

■ 取材対応者 保健予防課 課長 吉住 嘉代子
Tel803-7023 (内線) 2851 別館3階



【担当：主査 福永 千鶴 Tel803-7023 (内線) 2864】

Bウイルス病発生の届出について(2例目)

鹿児島市内の医療機関から鹿児島市保健所にBウイルス病発生の届出がありました。今回の届出は、1例目の疫学調査を行う中、当該実験動物施設で過去にサルと直接的接触等があった方で、当時採取されていた検体(検査材料)を改めて検査し、Bウイルス病が確認されたものです。

- 1 患者の情報 実験動物施設元従事者 1名(現在加療中)
平成26年体調不良により患者が医療機関を受診。
- 2 経過
 - 12月16日 医療機関から連絡を受け、本患者のH26年に採取されていた検体を国立感染症研究所へ市が検査を依頼。
 - 12月21日 厚生労働省、国立感染症研究所及び本市保健所の合同による実験動物施設への調査及び指導・助言を実施。
 - 12月23日 国立感染症研究所からの検査結果を市が受け取り当該医療機関に送付。
 - 12月23日 当該医療機関からBウイルス病の発生届を受理。
- 3 推定感染地 実験動物施設内
- 4 市民の皆様へ
 - ・本患者はH26年以前、サルの実験に従事しており、取り扱っていたサルから感染したものと推察されます。
 - ・1例目の方からの感染ではありません。
- 5 その他
 - ・施設所有法人においては外部有識者専門会議を設置し、12月21日に第一回の会議を開催しており、本市はオブザーバーとして参加しました。
 - ・Bウイルス病について(別紙)

※なお、本件については、患者様のプライバシー保護の観点から、ご配慮ある対応、ご協力をお願い申し上げます。

1 Bウイルス病について（感染症法による分類：四類感染症）

- (1) 病原体：Bウイルス（ヘルペスウイルス科 α ヘルペスウイルス亜科に属する Macacine alphaherpesvirus 1)
- (2) 感染経路：アカゲザルなどのマカク属サルに咬まれたり、ひっかかれたりした場合や、これらのサルの体液（だ液、尿など）に直接接触することによってヒトへ感染する。
- (3) 潜伏期間：2～5週間（早い場合は2日）。まれに感染後数年してから発症することもある。
- (4) 症状：サルとの接触部位（咬傷、擦過傷等）周囲の水疱性あるいは潰瘍性皮膚粘膜病変、発熱、接触部位の感覚異常、麻痺など。重症例では神経障害が後遺症として残る。

2 Bウイルスを媒介するサル（マカク属サル）について

自然界におけるアカゲザル、カニクイザルなどのマカク属サルは、半数以上が抗体陽性で、ウイルスを体内に潜伏感染していることが報告されている。

3 Bウイルス病の発生状況

Bウイルス病はとてもまれな感染症で、ヒトへの感染事例はこれまでのところ世界的に50例程度とされている。

4 Bウイルス病の治療・予防対策

傷口をできるだけ早く流水で洗浄する。

治療薬はアシクロビル、ガンシクロビルが有効。マカク属サルを扱った後にサルとの接触部位周辺の水疱性あるいは潰瘍性皮膚粘膜病変、発熱、接触部位の感覚異常、麻痺などがあつた場合は、早期に病院を受診することが重要。

5 参考

- ・厚生労働省（Bウイルス病について）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000130367_00001.html
- ・国立感染症研究所（Bウイルス病とは）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/470-b-virus-info.html>